

5. 「あいまい表現」のチェック

曖昧表現【品質管理編】

- 日本の言語文化でもあり、知らず知らずのうちに使用してしまう曖昧表現です。
- 提案書、設計書、報告書、さまざまな文書に曖昧表現は入り込みます。技術提案書でよく出てくる曖昧表現
- 基準値が明確でない曖昧表現が圧倒的に多い。
(単位が不明、期限が不明、対象範囲が不明、暗黙の了解)
一見定量的な表現だが・・・
- 進捗率70% (どこまで進んで70%か、人や状況によって異なる)

■程度（代表例）

すごく、適当、適切、ちょうど、かたい、だいたい、およそ、多く、きれい、～にくい（難い）、少々、相当、少し、しっかり、あまり、一定の、きちんと、ほぼ、当分、はっきり、よく、～ほど、たいした、やや、大きい、小さい、すぐに、・・・・・・

■強調（代表例）

ちゃんと、しっかり、ただし、とにかく、～はず、～さえ、～たら、ごとに、・・・・・・

■推測（代表例）

あれ、一応、くらい、だいたい、たいてい、およそ、～ようだ、～らしい、～れる、～だろう、・・・・・・

■その他（代表例）

必要に応じて～、～の予定、出来るだけ～、可能な限り～、など（等）、丁寧に～、適宜、場合によって～、～徹底する、迅速に～、～努力する、努める、・・・・・・

「あいまい表現」は評価しない。⇒全ての発注者共通の評価基準

「あいまい表現」が一つ入っているだけで、その提案事項はボツになる！